

「言葉遣い・コミュニケーションの在り方」についての論点（2）

論点1：「言葉遣いについての指針」の作成について

- 以下の（ア）、（イ）を検討した上で、今後の課題とするか否かを判断する
- （ア）社会的な要請があるか否か
 - （イ）作成するとした場合、どのような内容のものが考えられるのか
 - 「敬語の指針」との関係
 - 「言葉シリーズ」との関係

（1）審議の結果

今後、国語分科会で取り組むべき課題とする方向で考える。ただし、どのような指針として示すのかについては、更に検討する必要がある。検討に当たっては「ことばシリーズ（※）」のようなイメージで、規範を示すというよりは、言葉や言葉遣いに関わる問題について興味や関心を持ってもらえるような内容（問答形式とするなど）を工夫していくこととする。

※ 文化庁が昭和48年度から作成し、全国の学校や、社会教育機関等に広く配布してきた冊子で、解説編と問答編がある。平成6年度からは「新ことばシリーズ」に移行し、平成11年度から平成20年度までは国立国語研究所が作成。

（2）見直しの観点

- ① 言葉遣いについての基本的な考え方を示す
- ② 文化審議会答申「敬語の指針」との関係
- ③ 文化庁「国語に関する世論調査」との関係

- ◆ 言葉遣いについてどういう姿勢が好ましいのかなど、一般論的なことについての提案というか、見識を示すことについてどう考えるか（第6回議事録10ページ）

論点2：「緊急時における言葉遣いの指針」について

- 以下の（ア）、（イ）を検討した上で、今後の課題とするか否かを判断する
- （ア）社会的な要請があるか否か
 - 国語分科会で検討すべき課題であるのか
 - （イ）作成するとした場合、どのような内容のものが考えられるのか
 - 「情報の分かりやすい伝え方の基盤となる言葉遣い」との関係（前期の「意見のまとめ」）

（1）審議の結果

各分野において既に改善のための取組が行われていることなどから、国語分科会で取り組むべき課題とはしない。

論点3：「メールにおける言葉遣いの指針」について

- 以下の（ア）、（イ）を検討した上で、今後の課題とするか否かを判断する
- （ア）社会的な要請があるか否か
 - 国語分科会で検討すべき課題であるのか
 - （イ）作成するとした場合、どのような内容のものが考えられるのか
 - 「分かりやすいメールの言葉遣いの在り方」との関係（前期の「意見のまとめ」）

（1）審議の結果

「メールにおける言葉遣い」については、基本的に、個人的な問題という要素が強いことなどから、国語分科会で取り組むべき課題とはしない。

論点4：「情報化・国際化とコミュニケーションの在り方」について

1 情報機器との関係を踏まえた指針の作成

以下の(ア)、(イ)を検討した上で、今後の課題とするか否かを判断する

- (ア) 社会的な要請があるか否か
- (イ) 作成するとした場合、どのような内容のものが考えられるのか
→ 「対面コミュニケーション」との関係(前期の「意見のまとめ」)

(1) 審議の結果

情報機器の普及によって、「対面コミュニケーション」の機会が減っていること、今後、更にその傾向が強くなることが予想される中で、それに対応した「コミュニケーション能力の在り方」について、基本的な考え方をまとめられるかということであるが、この課題だけを単独の課題として扱うよりは、コミュニケーションの問題全般の中に位置付けて考えていくべき課題であるべき課題であると判断する。したがって、この課題については、課題5と合わせて考えていくべき課題として扱うこととする。

2 国際化との関係を踏まえた指針の作成

以下の(ア)、(イ)を検討した上で、今後の課題とするか否かを判断する

- (ア) 社会的な要請があるか否か
- (イ) 作成するとした場合、どのような内容のものが考えられるのか
→ 外国人に分かりやすい日本語、日本語教育小委員会との関係(前期の「意見のまとめ」)

(1) 審議の結果

主たる検討対象が「外国人とのコミュニケーションの問題」となることなどから、上記4-1と同様、コミュニケーションの問題全般の中に位置付けて、課題5と合わせて考えていくべき課題として扱うこととする。

論点5：「コミュニケーション能力の育成に関する指針」について

○以下の(ア)、(イ)を検討した上で、今後の課題とするか否かを判断する

- (ア) 社会的な要請があるか否か
- (イ) 作成するとした場合、どのような内容のものが考えられるのか
→ 「人間関係形成能力としてのコミュニケーション能力」と「論理的に伝え合うことのできるコミュニケーション能力」との関係
→ コミュニケーション能力をどのような能力と捉えるのか
→ 現在の社会で求められているコミュニケーション能力の本身
(以上、前期の「意見のまとめ」)

(1) 審議の結果

今後、国語分科会で取り組むべき課題とする方向で考える。ただし、具体的には、どのようなコミュニケーション能力が社会で求められているのかを明らかにできるような調査が必要である。また、コミュニケーション能力を高めていくための方法として、テクニックを身に付けるためのトレーニングなどに偏重した内容にならないような配慮も必要である。

(2) 見直しの観点

- ① コミュニケーション能力をどのような能力と捉えるのかの整理
- ② 現在の社会で求められているコミュニケーション能力の分析
- ③ コミュニケーション能力のうち、特に「人間関係を形成していく側面」と「論理的に伝え合っていく側面」との関係
- ④ 情報化・国際化の進展に伴う課題との関係
- ⑤ 学校教育における「コミュニケーション教育」との関係